

KTK

NO.100

後援会費郵便替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

待望の新館完成！



待ち望んでいた新館が、ついに完成！ 今年3月20日に竣工式が行われました。車イスを使っている人たちの新館での生活が始まりました。

あらぐさが出来た当初、無認可の時に使用していた友岡の借家や、新館が出来るまで使用していた本館の居室をふり返りながら、新館を紹介したいと思います。(次ページに続く)

あらぐさ通信は本号で100号を迎えました。皆様の発行へのご協力に感謝申し上げます。本号は表紙・裏表紙をカラー刷りで特別印刷、発行しています。

(8ページで「100号の歩み」掲載)

新館とあらくさの歩み



新館

利用者さんにあわせて あらくさが法人化され、井ノ内に建物が出来たのが平成17年7月。そこから10年の時が流れ、利用者さん達も年齢を重ね、過ごし方が変わってきました。新館を建てるにあたって、そうした利用者さんの姿に合わせて新館の内容を考えました。活動スペースと休養スペースを分け、みんなで広々活動したり、小グループで集中して活動出来るようにしました。また休憩時にほっこりしながらもみんなの様子が見えるように、などの工夫をしています。

新館に移り、さっそく皆でおやつ作りをしました。輪になって出来る様になったので、お互いの様子を見て“頑張ってるなー”、“見てみて！”と楽しんでいます。

利用者さんにとって新館での生活が、安心・安全そして楽しいと感じてもらえるように、これからも過ごし方を考えていきたいと思います。（宮本靖子）



新館の活動スペースで輪になって

本館旧居室での読み聞かせ

本館 旧居室

アイデアを出し合い 平成16年9月、社会福祉法人の認可を受け、翌年7月、井ノ内に建物が完成し、現在の障害福祉センターあらくさの開所となりました。開所にあたって、当時の職員で「活動ごとの部屋があれば…」「畳スペースを仕切れるようにカーテンが欲しいな」「給食もみんなで集まって食べたい」「吸引器などのためにコンセントはたくさんあった方が…」とアイデアを出し合い形にしました。ご家族から希望が多かった畳スペースも作り、くつろげる空間にしました。

建物が出来上がり、それぞれの借家から、たくさんの利用者さんが集まりました。久しぶりに会う人、初めて出会う人…たくさんの人との出会いに利用者さん達も笑顔が見られました。みんなで活動しながらも、1人1人のスペースも大切にするため、自分の好きな物(手紙やポスターなど)を貼るなど、「さわらびの家」での雰囲気も大切にしていました。（宮本靖子）

借家 さわらびの家



「さわらびの家」でのスナップ写真

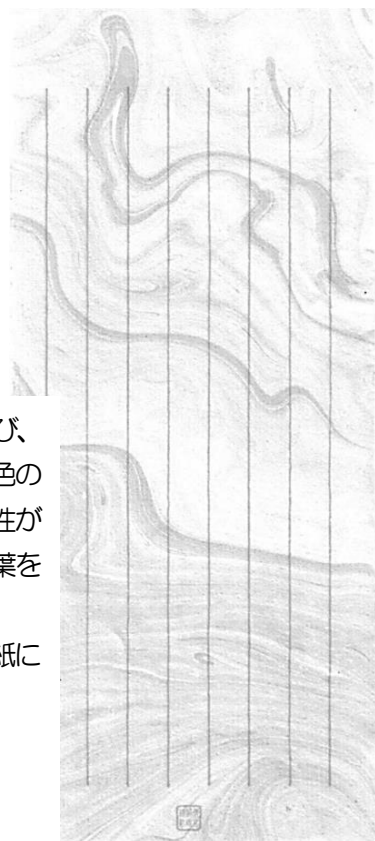
大家さんのご厚意で改造 光明寺前の借家で活動していた頃、「ゆったりグループ」と称していた車イスのグループは、重心通所さわらびの家・友岡として、TSUTAYAの線路を挟んだ裏手の借家で新たなスタートを切りました。大家さんのご厚意に甘えて、大がかりな改造をさせてもらい、車イスのまま、創作や調理などの活動ができるスペースを広く取り、休養スペースとして40cmの段差を付けた畳スペースを設けていました。写真は、当時のさくらんぼの家の職員の子供が訪ねてきた時のスナップです。利用者さんの後ろの壁に貼られている物は、即席中華の調味料や、カレーやシチュー等のパッケージです。当時、給食も無く、家からお弁当を持たせてもらっていましたが、毎週、火曜と木曜には調理をし、昼食にしていました。凝りすぎて完成が2時を過ぎたり、その分、送迎が遅れてしまったりと牧歌的な日々でした。

(松村誠)

製品紹介

Aグループ

マーブリング 一筆箋



Aグループでは、利用者の方が思い出にちなんだ印象的な色を選び、数種類の色を使って一筆箋をマーブリング染めしています。選んだ色の濃淡により、製品の風合いも微妙に異なり、一人一人の利用者の個性が光るまさに一点物です。一筆箋は大切な方へメッセージやお礼の言葉を添える際に、「とても重宝します」と好評です。

昨年は、近隣の住職様からご依頼を頂き、御朱印を書くための和紙にマーブリング染めをさせていただけるようになりました。

是非、世界に一つだけの製品をお選びください。

5枚入り100円 15枚入り300円(約19cm×約8cm)

将来のために

いろいろな力をつける

秀平くんは36歳。お父さんとお母さん、お姉さん4人家族の中で育ちました。あらぐさではピース作品の制作や染色などの仕事をしています。

おいたち

秀平くんの家は長岡第5小学校の近くにあります。3歳から近くの保育園に通い、加瀬記の先生や園長先生に大事にされて育ちました。加瀬記の先生は自閉症の障害について勉強されました。保育園の時は不安がつよく、赤ちゃんがえりがでて、よく抱っこを要求していました。

就学は長5小に入学しました。1年生の障級の先生は一人で通学ができるようにと指導をされました。3年生からは、向日が丘養護学校に転校しました。



向日が丘での活動

午前中は尺のぼりや崖のぼりなど、感覚統合をめざした「山の活動」。午後はカナツチなど道具を使って木工工作「手の活動」をしました。個別療育の学

習もありました。合宿の時はバスに乗ってお風呂屋さんへ出かけたり、いろいろな体験をしていました。文化祭の発表にむけて太鼓の取り組みがはじまりました。クラスのお楽しみ会があり、親子で参加しました。兄弟のこと、家庭のこと…いろいろな話をし交流しました。小6、高1、高3と寄宿舎に入舎しました。保護者の力で作る自主学童保育「わっしょいクラブ」にもはいりました。

とりわけ「わっしょいクラブ」は秀平くんにとって、すごく楽しい所でした。大学生のお兄さん、お姉さんが友達以上に、接してくれていました。家庭ではできないことばかりで、秀平くんはいつも笑顔だったのをお母さんは憶えています。今の秀平くんが育ってきた過程で大事な宝物でした。

地域の皆さんと共に

「このごろ秀ちゃん落ち着いてきたね」声をかけてくださる皆さん。近所の人達に小さい時から支えられてきました。家のすぐ下の交差点の所では、あるおばあちゃんがいいつも安全に気を配ってくれました。近所の農家の方は、秀平くんが毎日のように靴をぬいで家に上りこむことや、冷蔵庫を気にしていたことなどを話してくれました。「お姉ちゃんには、秀平くんは悪くない。と言っておく必要があるよ。」と助言してくれる人もいました。小さい頃、お姉さんが風邪で熱を出している時に秀平くんがいなくなるということがおきました。「お母さんは家で連絡を待ちなさい」と向かいの家の皆さんが手分けして捜してくれました。今里の交番からみつかった連絡がありました。

今、地域の人たちも高齢化して病気の治療や介護

の問題などをかかえてそれぞれに生活が変わってきました。小さい時から育った地域でこれからも家族で仲良く共に暮らしていきたいと思います。

家のくらし

あらぐさから帰宅すると、体温、血圧、体重測定をしています。朝、出かける前には、重い洗濯物を2階のベランダに運び上げています。夕方、夜の分の洗濯干しを手伝ったり、洗濯のたため物が残っていると片付けています。

日曜日にはお父さんと家の掃除をしています。秀平さんの勉強は、お父さんの準備した漢字など文字プリントを写す学習で小学生のころから続いています。1マスごとに、几帳面に文字を書き込んで、上から赤いペンで花マルマークを自分でサインしています。



秀平さんの本棚には、野菜と料理の本、旅行誌などがあります。机の箱の中には色鉛筆がていねいに並べられています。壁にかけられたカレンダーには、お母さんが予定を書きこんでいます。秀平くんはそのメモを鉛筆でなぞって日程の確認をしています。その日のスーパーのチラシに夕食の献立にして欲しいと思う物に○印をしたり、料理の本をひらいて作ってほしい食事を伝えています。

外出には、ガイドヘルプ制度を利用しています。梅田シティ。神戸では遊覧船に乗っています。琵琶湖。清水寺にでかけかえりに七条烏丸の「王将」に

立ち寄ります。ヘルパーさんには外出の日程や行き先地図などをプリントにして渡しています。

家族旅行

小学生の頃、お父さんの運転する車で3~4泊のキャンプによく出かけました。十津川、大山、…戸隠 乗鞍など。立ち寄り湯。テントを張って、食事づくり。野菜を洗ったり切ったり、食器の片付けと秀平くんはよく働きました。行き先はだんだん信州に決まってきました。みんなよく絵も描きました。キャンプはお姉さんが中学に行く頃まで続きました。今となってはいい思い出です。

これからのこと

ここ数年お母さんは実家の事でとても忙しくしています。施設探しや制度利用のための書類の作成や手続きなど仕事が重なりました。そのために体調をくずすことがありますが、なんとか元気にやっています。

これから先、秀平くんの将来のために今のうちにいろいろな力をつけておきたいと考えています。家事など毎日家族で分けあって生活していますが、その中で身につけていけるようにと思っています。外出はガイドヘルパーの方としていますが、誰れとでも出かけられるように望んでいます。5月には、久々にいろいろのショートステイを利用しました。

(取材：前田幸子 真殿尊子)



第7回 みんなおいでよ
— あらぐさひろば

10月13日(土)開催

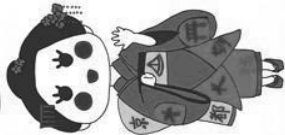
ともに生きる
ともに創る

夢ある未来へ
京都から

きょうされん全国大会in京都 2018年9月21日(金)～9月22日(土)

会場 国立京都国際会館

きておくれやす



京都大会キヤラクター
まいこ～

ボランティア大募集

今大会を成功させるためには、800人以上のボランティアが必要になると考えられます。障害のある方の支援、会場の設営や道案内、お弁当の配布やゴミ回収などいただける方を募集しております。

お問い合わせ

あらかび福祉会
きょうされん担当
浜野亜希子 東宮健史 鞍馬勝史 まで
TEL 075-953-9212

全国大会って何するの？

全国大会には、障害のある方やその家族、施設関係者だけでなく、全国から4000人が集まります。京都で全国大会が行われるのは19年ぶりになります。
この大会を通して、障害のある人達や、くらしに困難を抱えている人達の実態や願いを、全国の人達と共有したいと思えます。そして、「障害者権利条約」に謳われている、誰もが分け隔てなく安心してくらす社会に一歩でも二歩でも近づきたいと考えています。

初日はオープニングセレモニーで障害のある方による開幕太鼓から始まり、みんなの願いを歌詞にした大会テーマソング「みんないっしょずっといっしょ」の大合唱が行われます。
その後に行われる国際シンポジウムでは、障害者権利条約成立の立役者と言われている海外のゲストをお招きしていきます。2日目には障害のある方を対象にした京都観光や、障害のある方の暮らしや地域づくりを学ぶ分科会が開催されます。

協賛金を募っています

全国大会成功の為にたくさんの方の賛助も必要になってきます。ぜひ協賛金のご協力をお願いいたします。
個人協賛 一口 1000円
団体協賛 一口 5000円
広告協賛 一口 5000円(1口で名刺サイズの広告)

あらかびのみんなも
楽しみにしています

大会が成功するように
頑張っています！



きょうされん仲間実行委員
塚上公之さん

塚上さんより全国大会についての報告会
あらかびのみんなが集まりました



障害福祉センターあらぐさ 職員

あわづ めい
栗津 芽生さん



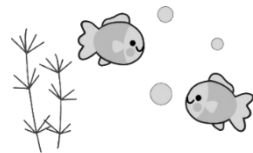
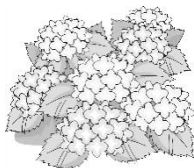
四月から、ワークセンターに所属しています、栗津芽生です。

私は、幼稚園の先生になることを目指し、保育の専門学校に入学しました。幅広い知識や技術を持った保育者になりたいと考えていたため、児童養護施設、保育所・幼稚園に加えて、障害者施設実習が必須である学科を選びました。そして、初めての障害者施設での実習がこのあらぐさでした。自ら障害者施設での実習を希望したものの、障害のある人と関わる機会があまりなかったため不安でいっぱいでした。その時は、Bグループで二週間実習させていただきました。利用者さんとの関わりでは、言葉でのコミュニケーションが難しく戸惑うことも多くありましたが、担当の職員の方々からのご指導やアドバイスを頂き取り組むうちに、実習後半には実習が終わるのが寂しくなっていました。

実習を通して気付いたことは、利用者さん、ご家族が年齢を重ねることにより、ご家族によるこれまでの介護や援助が難しくなっているというこ

とです。そこで、利用者さんの地域生活を守るためには、あらぐさのような事業所が大変重要な役割を果たすようになって感じました。そのことがきっかけで、障害者福祉に興味を持ち、私も障害者福祉の現場に携わりたいと思うようになりました。その後、数々の障害者施設への実習や見学に行きましたが、幼稚園教諭を目指していた私を、障害者福祉の道へ導いて下さったあらぐさで働きたいと思い就職を決めました。

まだ入職して間もないですが、少しずつメンバーさんとの距離が縮まってきているのではないかと感じています。今は、わからないことばかりでメンバーさんに教えてもらう事、手伝ってもらうことも度々ですし、毎日が学びです。これからこのあらぐさで、私自身多くの事を学ばせていただきながら、少しずつメンバーさんにとってのよりよい生活について考え、一緒に楽しくお仕事ができるように頑張っていきたいと思っています。宜しくお願いします。





「あらくさ通信」100号の歩みから

創刊～25号（1986年～1993年）

「あらくさ通信」の創刊は、「共同作業所あらくさ」が開所した1986年7月19日です。

“障害の重いこどもたちが乙訓でくらしをきすく共同作業所”と、高らかに宣言しています。

4名から出発した「あらくさ」は、年々増え続ける利用者に対応するため、次々と借家を増やしていきます。わらび採り、わらび販売、古紙回収、畑活動、レザークラフト、さをり織り、クッキーづくり、そして訓練、歩行・・・狭くて、設備の整わない環境でしたが、創意あふれる実践と生活が、紙面に溢れます。行政からの補助金が出ない中で、運営の困難さを打開するための要望、資金作りの協力も、紙面の多くを使っています。

26号～40号（1994年～1997年）

「あらくさ通信」26号（1994年5月19日発行）から、京都障害者団体定期刊行物協会（KTK）に加盟し、第3種郵便物としての承認を受け、今の形式——B5判・6頁だて——となりました。

1995年1月に、阪神大震災が起きました。「あらくさ」は、連日職員を派遣するなどの支援活動を展開し、「あらくさ通信」号外を発行して、義援金の呼びかけなど支援の運動を広げました。

この年、「あらくさ」は、開所10年目を迎えました。「あらくさ通信」は31号（1995年6月）を数え、「障害の重い人たちの地域生活援助を考える」を連載しました。また、「私たちの思い みんなの願い」と題して家族の思いをシリーズで紹介しています。



41号～61号（1997年～2004年）

「あらくさ通信」41号（1997年12月）は、あらくさ史上最大の規模となった「あらくさ支援バザー」を掲載しています。いまま語り草になるバザーですが、売上622万円、古着2400着、家具300点、古本5万冊、スタッフ600名・・・協力いただいた3千名の方々のお名前が7頁にわたって掲載された紙面は圧巻です。あらくさ支援の輪の広がりが伝わってきます。

増える家賃と設備投資——「あらくさ」の移転と法人化は喫緊の課題となっていました。54号（2001年10月）から、「あらくさ法人化をめざして」のシリーズがはじまります。また、「コラム」欄が作られ、医師会の先生や建築の専門家、他事業所からの寄稿など地域の方々との連携の深まりが紙面から読み取れます。

2003年、いよいよ「あらくさの法人化を実現させる会」が発足し、60号（2004年9月）の紙面に念願の法人施設「平成17年度開設」が発表されました

62号～100号（2005年～2018年）

2005年7月に、法人施設が長岡京市井ノ内に関所、あらくさ後援会が発足したことにより、62号（2005年10月）からあらくさ後援会が編集、法人が編集協力することで発行されるようになりました。

後援会の専門部として広報部が設置され、「あらくさ通信」は、編集委員会のもとで編集されるようになり、後援会の活動を紹介し後援会員を結ぶ機関誌として、また、あらくさの実践を広く市民の方々に知っていただくための広報誌としての役割をはたしてきました。現在約1千部が発行されています。

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

1月1日～3月31日 敬称略・順不同

東俊明 足達菜々絵 天野きみ 粟野亜希子
井古テル子 一箭浩志 植田進 一般社団法人
江後経営 大釜和子 小野信子 小野田照代
鎌田桂子 亀川義昭 木村栄美子 佐名木良実
重松悦子 関節子 田中真理 谷早苗 谷口忠行
谷口弘子 津田恵理子 寺岡敬博 有限会社長岡
美装社 長島里香 西村秀晴 西山俊太郎

野々下靖子 橋爪早苗 馬場かね子 浜野紘久
ぱんだ企画 東田克祥 平野路予 昼神仁美
藤井久子 堀江幸男 町田摂子 松田恵美子
村上宏 村上すみ子 八木幸一 山本朝栄 山本
利江 山本義則 山本恭子 横澤辰美 吉瀬順子
吉本久枝 和田廣茂 和田正子
匿名11名

あらぐさ後援会 総会報告

寄贈されたワゴン



5月12日あらぐさ後援会総会が開かれました。議事の前にあらぐさ福祉会安田理事長から本年度「事業概要」の説明を受けました。その後審議に入り「平成29年度事業報告・決算報告・監査報告」「平成30年度事業計画・予算案」「平成30年度役員選出」の3つの議案が承認されました。昨年度の会員数は383団体個人で、あらぐさ支援募金は283団体個人の方から961,979円寄せられました。あらぐさ福祉会への寄付は一般会計より12万円と支援募金全額が贈られました。12万円で新館へ給食を運ぶワゴンを購入しています。

総会2部は学習会が行われました。「誰もが共に自分らしく暮らす長岡京市障がい者基本条例について」のテーマで長岡京市健康福祉部の渡邊まどか氏から障害者権利条約、障害者差別解消法から条例、日常生活での合理的配慮例などのお話を聞きました。

〈本年度役員〉 会長：野々下靖子 副会長：中川千津子・増田康夫 事務局長：松村誠 会計：今西さよ子 役員：稲葉薫・角摂子・真殿尊子・三浦朱葉・三谷文菜・宮本靖子・森垣美知子 会計監査：大江文子・宋明子

2018年度 あらぐさ後援会

後援会費納入とあらぐさ支援募金のお願い

後援会の更新の時期となりました。会費納入と支援募金をよろしくお願ひします。あらぐさ支援募金は、あらぐさ福祉会がすすめる「暮らしの場」づくりの施設整備を恒常的に支援することを目的にしています。

あらぐさ後援会 個人 1口 1000円 団体 1口 2000円
あらぐさ支援募金 1口 1000円

- ・同封の振込用紙をご利用下さい。入金と行き違いになりました際はご容赦ください
- ・後援会費、支援募金には「KTKあらぐさ通信」紙代が含まれています

いろどり 5周年



「ともに祝おう」をテーマに5周年イベントを5月19日に開催しました。当初3月に予定していましたが延期となってしまう、この日に開催となりました。たくさんの人にご参加頂きました。

まず、いろどりの5周年を振り返ってスライドショーを鑑賞しました。昼食には、ご家族さんにも手伝っていただいた手作りのおでんやカレー、バーベキュー。デザートにはパンケーキ。

「乾杯ー!!」の後に利用者さん、ご家族、職員とみんなで食べました。また、いろどりででの日常の様子など会話が弾んでいました。

昼食後、さかなつり、ボーリング、射的などをまわってスタンプラリーをしました。ものづくりでは手さげ鞆に好きな絵柄の色づけを親子で熱心に取り組みされていました。完成したものは記念品として持ち帰られました。

いろどりはもうすぐ6周年を迎えます。皆さんの支えがあってこそ5周年を迎える事が出来ました。これからも、「家も良いけど、いろどりも良いな」と思っていただけ様々に日々の暮らしの中での楽しみや行事などをたくさん企画していきたいと思っています。